

三番瀬自然環境調査事業の考え方(案)

平成18年11月21日

環境生活部自然保護課

1. 調査目的等

三番瀬の自然環境は変動しており、生物とそれを取り巻く環境の現状を把握するとともに、科学的知見を蓄積し、順応的管理による再生事業の基礎資料として活用することが重要である。

このような考えのもと、円卓会議の下部組織である「専門家会議」において検討された調査内容(案)を踏まえ順次実施していく。

また、この調査の中で過大な部分、不十分な部分等があれば、再生会議、評価委員会の指導・助言を得ながら、可能な範囲で修正を加えて効率的に実施する。

2. 調査項目

調査項目については、三番瀬の生態系を構成する環境条件及び各生物の分類群を対象として選定する。

(1) 地形

1) 深浅測量

(2) 環境条件

1) 底質調査

2) 水質調査

(3) 生物

1) 底生生物調査、中層大型底生生物調査

2) 魚類調査

3) 藻類調査

4) 付着生物調査

5) 鳥類調査(シギ・チドリ類採餌状況調査、スズガモ等の食性調査、経年調査)

3. 調査地点・方法

調査地点や方法については、経年的な比較ができるよう、原則として、これまでに実施した補足調査及び平成14年度調査と同一地点及び方法で継続する。

4. 調査間隔

補足調査は平成8、9年を中心に実施し、前回調査は平成14年度に実施していることから、概ね5年間隔で把握することは必要と考えている。また、財政的な状況により、単年度で全ての項目を調査するのは困難なため、各年度に配分し効率的に実施できるようにする。

なお、平成18年度は底生生物、底質、水質調査を実施しているところである。

5. その他関連する主な調査（自然環境調査事業以外）

- (1) アサリの資源量調査、東京湾の貧酸素水塊の分布調査として、県水産総合研究センター等において継続して実施する。
- (2) 青潮発生時の現場調査として、県水質保全課及び環境研究センターにおいて引き続き実施する。

6. 調査結果のとりまとめと活用等

(1) 調査結果のとりまとめ

調査結果については、年度毎にとりまとめ、加工・解析し、データ相互間の関係や過去からの経年変化等を考察し、評価していく。

また、5年間の調査結果を総合的にとりまとめ、三番瀬の自然環境の現状や仕組みを把握するとともに、三番瀬の自然環境の推移について、考察していく。

なお、とりまとめにあたっては、再生会議・評価委員会の指導・助言を得ながら進めていく。

(2) 調査結果の主な活用

得られた知見を活用し、三番瀬の自然環境に対する共通の認識を広く醸成し、今後の再生のための議論や再生事業全体の展開に役立てていく。

また、調査自身のあり方の議論にも役立てていく。

(3) 自然環境データベースとしての一元的な管理

調査結果については、三番瀬に関連する他の調査結果とともに、県環境政策課において自然環境データベースとして一元的に管理し、効率的に活用するとともに、再生のための共通の情報源としていく。

以上